



第26回安城学園報告討論会

日時：2025年6月7日(土)

場所：愛知学泉大学・愛知学泉短期大学 岡崎学舎

■ 報告討論会 基調講演 ■

「私たちの働き方・学び方の質を変えるためにAIを！」

—AIトランスフォーメーション—

学校法人安城学園 学園長 寺部 暁

今回のテーマは、「私たちの働き方・学び方」です。全体テーマである「働き方」「教え方」「学び方」のうち、本講演は学生ではなく職員を対象としています。したがって、「職員の働き方と学び方」、そしてその「質」をどのように高めていくかが主題となります。

キーワードは「トランスフォーメーション」。AIを活用して変化を起こす、そんな意志を込めた言葉です。教育やクラブ活動など、さまざまな場面でAIをうまく使いこなし、変革につなげていくことを目指しています。このテーマは「AIシリーズ」として3年越しで取り組んでいます。

AI時代には「言語」「言葉」が重要になると考え、リーディングスキルテストなどにも力を入れてきました。最終的な目的は、「人間にしかできないことをやろう」ということです。人間でなくてもできることはAIに任せ、人間として何をすべきかを考えることが大切です。

AGI(汎用人工知能)の登場と変化の時代へ

2020年以降、ChatGPTなど生成AIの普及が急速に進みました。特に対話型AIやチャットボットの進化によって、これまでwikipediaなどで「調べる」時代から、「AIが直接答える」時代へと変わりつつあります。これまでのAIは特定の仕事しかできませんでしたが、AGI(汎用人工知能)は、あらゆる分野に対応できるとされています。

以前は「10年後」と言われていた実現も、今では「5年後」と予測されています。もはや1年先だけでなく、5年先を見据えて考える必要があります。新聞では「人類が生む最後の大発明」とも報じられています。

AIは自己点検・自己評価・自己改良を行うようになり、教育の分野でも重視される「自律的な学習」とつながってきます。これまでの「自立(自分で立つ)」から一步進み、「自律(自分を律する)」が求められます。

AGIは短期的な記憶しか持たなかった従来型AIと異なり、長期的な記憶と継続的な学習能力を備えています。幅広い知識を持ち、未知の課題にも対応でき、さらには目標を設定して自ら学び動く存在となるでしょう。

AI時代の中で問われる「人間らしさ」

AIと人間を比べたとき、人間には「智性・徳性・身体・感性・行動」といった総合的な力があります。たとえAIが知能や身体的機能を持つようになっても、まだ人間にしか発揮できない領域が残されています。

		智性	徳性	身体	感性	行動
人間		○	○	○	○	○
AI		○	—	○	—	△

アメリカではすでに大学教育の価値そのものが問われ始めています。高い学費に見合う価値があるのか、学生が疑うようになったことは「知性の証」です。逆に、自分を疑うことができないのは危険です。採用

の現場でも、学歴やGPAよりも「どんなアプリを使いこなせるか」が重視されるようになっていきます。

また、UAEや中国では幼稚園から高校までAI教育が必修化されています。世界はAI教育を加速させています。私たちもこの流れを無視することはできません。学校教育や社会において、「本当にこれでいいのか」と問い直す姿勢が、知性ある生き方として求められています。

外部環境の変化と教育現場の課題

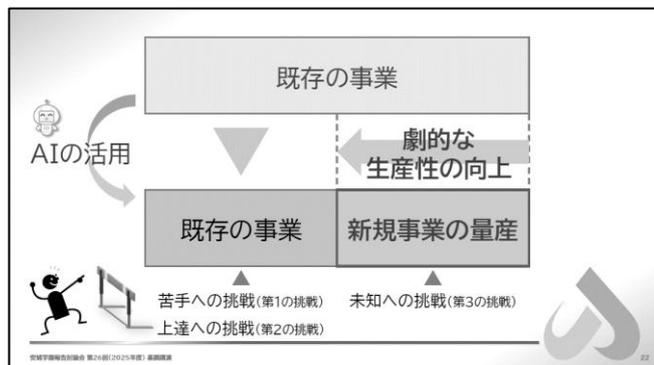
安倍元総理の言う「予測不可能な時代」は、まさに今のことです。確実に分かるのは人口動態。2024年のデータでは、18歳人口は106万人、出生数は68万人に減少しています。大学の定員を固定したままでは、中小規模の私立大学・短大のマーケットはさらに縮小していくでしょう。

生産年齢人口の減少、人手不足、地方の過疎化、そして外国人労働者の増加。これらの社会変化に対応することが急務となっています。AGIの登場、Z世代・AIネイティブ世代の台頭は、脅威であると同時にチャンスでもあります。AIを活用すれば、地域産業にも新しい可能性を生み出せます。

今は既存事業をAIで強化しつつ、新しい事業にも挑戦することが求められる時代です。単なる「改善」では通用しません。生産性を劇的に向上させる発想の転換が必要です。

AIトランスフォーメーションと「人間にしかできないこと」

これまでの「DX(デジタルトランスフォーメーション)」の時代から、今は「AX(AIトランスフォーメーション)」の時代へと移り変わっています。AIを活用して潜在的な力を引き出し、人間が本来持つ創造性や共感力を発揮していくことが重要です。AIに任せられる仕事はAIに任せ、人間は人間にしかできない仕事に集中する。AIはもはや単なる道具ではなく、ともに成長するパートナーです。



本学園においても、既存の事業には3つの挑戦があります。第1、第2の挑戦に続き、今後必要なのは新規事業の「量産」とも言える第3の挑戦です。これにより、組織として新しい価値を継続的に創出して

いくことを目指します。

これからの学びとAIとの共創

「智・徳・体・感・行」の社会人基礎力やpisa型学力、学園の四大精神はどれも大切です。特に今、学生や大人に求められているのは「主体性」と「実行力」です。AIの登場によりストレスは増えましたが、それでも自分で考え、行動する力がより重要になっています。AIなどの新しいツールには積極的に触れてみるのが大切です。今は人によって活用レベルに差があっても、3年後には全員が理解し使いこなせるようになることを目標にしましょう。

The infographic contains two main goal statements. The first is '3年後までに全職員が仕事で使える (ループブロックは生成AI活用推進プロジェクトで作成中)' (By 3 years later, all full-time staff will be able to use it for work. Loop Block is being created as part of the generative AI utilization promotion project). The second is '3年後までに全職員が全国平均(C評価)以上' (By 3 years later, all full-time staff will be at least at the national average (C evaluation) level). There are small icons of a person at a computer and a person reading a book.

また、「自ら学ぶ・共に学ぶ」姿勢も大事です。幼少期は「遊ぶこと＝学ぶこと」でしたが、成長とともにその二つは分かれてしまいます。大人も「遊びながら学ぶ」気持ちを取り戻しましょう。

NotebookLMで「遊びながら学ぶ」

今日の講演の最後は、「NotebookLMで遊んでみてください」というメッセージです。研究や事務の現場でも自ら使い、どんな活用ができるか試してみましょう。AI教育を子どもたちに求める前に、まず大人が実践することが大切です。

YouTubeも「見る・聞く」だけでなく、「読む・書く」など多様な使い方ができるようになっています。NotebookLMでは、動画を要約したり、マインドマップを作成したり、対話形式で内容を学ぶこともできます。

大切なのは、「AI、AI、AI」と繰り返すことではありません。「人間にしかできないことは何か」を考えることです。AIに任せる仕事と、人間が担うべき仕事を分け、よりクリエイティブな挑戦をしていきましょう。

そしてAIを積極的に活用しながら、共に新しい学びの時代をつくっていきましょう。